

## 6. 陸上昆虫類等調査結果の概要

## 6. 陸上昆虫類等調査結果の概要

### (1) 分布状況から見た河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 23 水系 26 河川で確認された陸上昆虫類等は、34 目 462 科 6,608 種でした。確認種数が多かった河川は、北陸地方の信濃川で 2,309 種、次いで北海道地方の石狩川で 2,058 種、近畿地方の淀川水系（淀川）で 1,691 種等でした。

### (2) 特定種一覧（資料 II.6.1）

今回とりまとめを行った 26 河川で確認された特定種は、環境省（庁）のレッドリストで絶滅危惧 I 類に指定されているコガタノゲンゴロウ等 6 目 26 科 37 種でした。特定種の確認種数が多かった河川は、北陸地方の信濃川（9 種）、北海道地方の釧路川（6 種）、中国地方の高津川（6 種）等でした。確認された河川数が多かった種としては、環境省（庁）のレッドリストで準絶滅危惧に分類されるギンイチモンジセセリが 8 河川、ついで絶滅危惧 II 類のツマグロキチョウが 6 河川などとなっていました。

（注）特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- 環境省（庁）編「レッドリスト」掲載種（2000）

### (3) 外来種一覧（資料 II.6.2）

今回とりまとめを行った 26 河川で確認された外来種は、7 目 22 科 41 種でした。外来種の確認種数が多かった河川は、近畿地方の淀川の 23 種、中国地方の高梁川の 19 種、近畿地方の円山川の 17 種等でした。外来種の全く確認されなかった河川はありませんでしたが、地方別では北海道地方の 9 種の確認が最も少ない結果でした。

（注）外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I. 5(44～45 ページ)に掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

### (4) ゲンジボタルとヘイケボタルの確認された地域（資料 II.6.3 (1/2)）

確認状況の概要は 13～14 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 146～147 ページに掲載されています。

### (5) アオマツムシ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、シバツトガ、アメリカミズアブの確認された地域（資料 II.6.3 (3～9)）

確認状況の概要は、22～23 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 148～154 ページに掲載されています。

- (6) ゲンジボタル、ヘイケボタル、アオマツムシ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、シバオサゾウムシ、シバツトガ、アメリカミズアブの確認状況の経年比較（資料 II.6.4）

確認状況の概要は 13～14、22～23 ページに、これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 155 ページに掲載されています。